

平成31年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査結果 課題分析表 (中学校)

教科ごとの「教科の観点」における平均正答率の比較

篠崎中学校

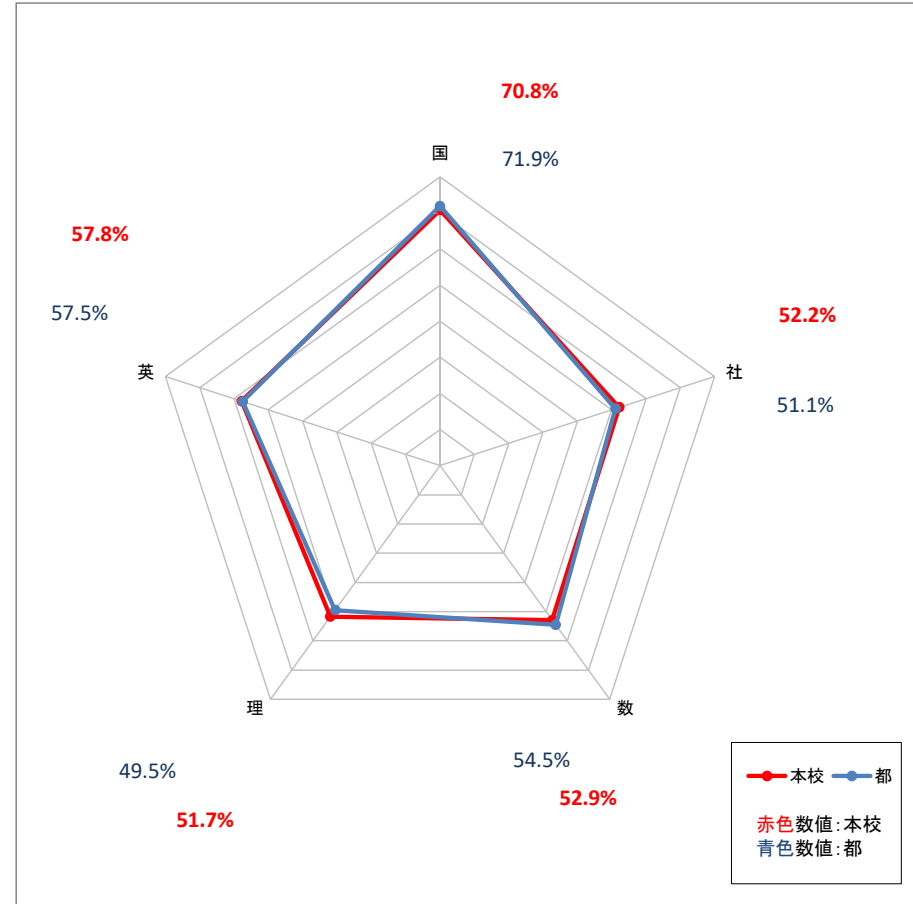
国語	教科の観点				教科の合計
	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	
東京都	74.8%	58.9%	79.3%	69.1%	71.9%
本校	77.4%	60.2%	81.2%	63.6%	70.8%
都との差	2.6	1.3	1.9	-5.5	-1.1

社会	教科の観点			教科の合計
	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解	
東京都	48.7%	61.9%	41.1%	51.1%
本校	49.2%	63.1%	43.0%	52.2%
都との差	0.5	1.2	1.9	1.1

数学	教科の観点			教科の合計
	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	
東京都	31.4%	62.4%	63.3%	54.5%
本校	31.1%	60.1%	61.6%	52.9%
都との差	-0.3	-2.3	-1.7	-1.6

理科	教科の観点			教科の合計
	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解	
東京都	43.9%	60.2%	47.4%	49.5%
本校	44.9%	65.4%	48.9%	51.7%
都との差	1.0	5.2	1.5	2.2

英語	教科の観点			教科の合計
	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解	
東京都	46.1%	62.4%	59.2%	57.5%
本校	45.5%	63.6%	58.5%	57.8%
都との差	-0.6	1.2	-0.7	0.3



《都との比較にみる本校の状況》

東京都の平均と比べて、国語-1.1ポイント、社会+1.1ポイント、数学-1.8ポイント、理科+2.2ポイント、英語+0.3ポイントという結果で、レーダーチャートからも分かるように、全教科、都平均とほぼ同じであった。

国語に関しては、言語についての知識・理解・技能が-5.5で、今後の課題である。

社会に関しては、全ての観点で都平均を上回った。地図やグラフ、資料の読み取りを継続してきた成果であろう。

数学に関しては、全ての観点で都平均を下回った。授業の様子から問題に取り組む意欲はあると思われるが、問題解決能力が不足していることが考えられる。

理科に関しては、全ての観点で都平均を上回った。既習事項が身につけていることが伺える。特に観察・実験の技能が+5.2であるのは教科として力を入れてきた成果と考えられる。

外国語(英語)に関しては、概ね都平均と同じであった。

《授業改善のポイント》

思考力・判断力の育成において学び合い活動は必要不可欠である。少人数班(4人班)での話し合い活動・発表活動等を通して学級全体の思考力を向上させていく。また、アクティブラーニングを用いて、既習事項を活用して図やグラフ等を用いて自分の考えを表現する力を育成し、活用力のより一層の向上を図っていく。

さらに、根気強く問題を解決していく学習を積み重ね、「解決する力」を向上させる指導を積み重ね、「解決する力」を向上させる指導を続けていく。文章を読むことや、最後まで諦めずに問題に取り組もうとする根気強さが身に付けられるように、文章をじっくりと読む時間、生徒たちが考える時間を多く取り入れていきたい。全体的な学力の底上げとして、実践的な問題を解く指導を取り入れていく。

《家庭・地域への働きかけ》

宿題をはじめ長期休業中の課題を準備し、取り組ませていく。また、新聞やテレビなどで報じられたニュース(時事問題や国際情勢等)、身近な自然現象等について家庭内でも話題にしてもらえると、社会や理科への関心も深まると考えられる。

確かな学力を構築させるためには、学校での勉強だけでなく家庭学習を継続して行っていくことが必要不可欠である。三者面談等を通して、保護者に質の高い学習法を理解してもらい、協力を仰いでいきたい。